



学校だより

9月号

横浜市立大道小学校
令和4年8月29日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「夏、北アルプスで」

今年の夏休み前半は猛暑が続き、35℃を越す日もありましたが、このところ、そこまで気温が上がるのがなくなり、少しずつ過ごしやすくなってきました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。思い返すと、去年は「分散登校」から始まる夏休み明けでしたので、みんな一緒にスタートできるというのは、嬉しいことです。様々な行事が計画されている秋ですので、子どもたちがより一層成長できるよう、支援していきたいと思えます。

私事で大変恐縮なのですが、最近経験した出来事を紹介させていただきます。私は「登山」が趣味です。まとまった休みが取れるのはこの時期だけなので、毎年大好きな「北アルプス」に出かけています。今年は、4日間のロングコースを計画しました。中でも一番の楽しみは、「雲ノ平」に行くことでした。ここは、北アルプスの中でも最も奥に位置し、どの登山口からでも二日はかかるという場所です。登山二日目、「黒部川」の源流まで一気に下り、そこから再び登り返します。2時間以上続くこの登りが大変急で、一番の頑張りどころです。しかし、ここでアクシデントが起きました。一緒に登っていた妻の右足が、苔むした大きな岩と岩の間にはさまってしまい、その時に捻ってしまったのです。妻は痛みを耐えながら何とか登っているのですが、その様子を見て、私は「自力では下山ができないかもしれない。」と思いました。「ヘリコプターの救助要請」という、最悪のケースが頭をよぎりました。しかし、やっとの思いで、「雲ノ平」の山小屋に到着することができました。

すると、たまたま居合わせた登山者の方々が、「痛そうですね。テーピング用のテープなら持っているので、使ってください。」「湿布があるので、よかったらどうぞ。」と、心配して声をかけてくださるのです。ある方などは、小屋から往復1時間近くかかる「水場」まで行き、冷たい湧き水をビニル袋に入れて届けてくださいました。「これで足を冷やしてください。少しは楽になるかもしれませんが。」その方も、私たちと同じコースを登ってきたので、疲れているに違いありません。しかし、少しでも冷たい水の方がいいと思い、1時間かけて湧き水を運んでくださったのです。見ず知らずの私たちに、そこまでしてくださることに、ただただ感謝の言葉を述べるだけでした。

私は、「困っている人がいたら、迷わず行動することができるか。」と、自分に問いかけました。損得抜きで、人の役に立つようなことができるだろうか、見て見ぬふりをしてしまわないだろうか。「手を差し伸べる」「人の役に立つ」、言葉にしてしまうと簡単なことのように感じますが、様々な状況の中で、「自分はできる。」と断言することは難しいと感じます。ただ、相手の様子をよく見て、何に困っているのだろうか。」と気付く感性や、「大変そうだな。」と思いやる優しい気持ちがもてるよう心掛けることはできます。そうすると、「何か手伝えることはないかな。」というように、自分から一歩踏み出すこともできるのではないかと思います。今回の一件を通して、お互いに助け合うことや、相手を思いやることについて、学校でも大切にしていきたいと、改めて感じました。

その後ですが、山小屋でいただいた、たくさんの「優しさ」のお陰で、妻は残りの二日間を歩き切ることができました。「大切なこと」を教えてもらった登山になりました。